

日本人学習者の VO 式離合動詞の 習得に関する一考察

洪 潔 清

0 はじめに

日本人の中国語学習者の書く中国語には以下のような誤用がしばしば見られる。「→」以下が正しい文である。

- 1) *我昨天打工了五个小时。
→我昨天打了五个小时工。
(私は昨日 5 時間アルバイトをした。)
- 2) *毕业大学后, 我打算去中国留学。
→大学毕业后, 我打算去中国留学。
(大学を卒業した後, 私は中国へ留学に行くつもりだ。)
- 3) *我每天睡觉得很晚。
→我每天睡觉睡得很晚。
(私は毎日寝るのが遅い。)

いずれも離合動詞（下線部）と呼ばれる語を用いた文である。何故このような誤りをするのだろうか。基礎文法がまだ固められていないこともあるが、離合動詞の語構成上の特徴に対する理解が足りないことが大きな要因ではないかと考えられる。

上記下線部の単語を日本語に訳すと、1) の“打工”は「アルバイトをする」、2) の“毕业”は「卒業する」、3) の“睡觉”は「寝る」という意味で

ある。外国人学習者からすれば、これらが“学习”「勉強する」，“参观”「見学する」といった一般動詞と外見上変わらないように見えるため、同じ種類の動詞とみなしてしまい、両者の用法に違いがあることに気が付かないのだと考えられる。

中国語には離合詞⁽¹⁾という特殊な語が存在している。離合詞には、語構成が“动宾式”（動詞＋目的語）からなるものと“动补式”（動詞＋補語）からなるものがある。前者の例としては、“洗澡（お風呂に入る）”、“睡觉（寝る）”などがあり、後者の例としては、“打败（打ち負かす）”、“听见（聞こえる）”などが挙げられる。離合詞とは文字通り、「離」して使うことも、「合」わせて使うこともできる語である。しかし、外国人学習者にとっては、どんな語が分離できるか、また、どのような場面で、どのように分離して使えるかを身につけることは容易なことではない。

本稿においては、“动宾式”、すなわち VO 式離合動詞のみを取り上げて論じることとする。まず筆者が行った日本人学習者の VO 式離合動詞に対する習得度を測った調査を紹介し、そこから垣間見られた誤用の傾向及び習得を妨げる問題点を示す。そして最後に、今後教育現場においては、離合動詞をいかに教えるべきかについて検討してみたい。

1 VO 式離合動詞の習得状況

今回、VO 式離合動詞の習得状況を調べるために、5つの大学でテストを実施した。テストの内容（付録）は、26種類の中国語の文（日本語訳つき）を示し、文法的に正しい場合には○、正しくない場合には×をつけてもらった。辞書の使用は不可。テストには、初中級レベルで頻出するVO式離合動詞（说话, 上课, 吃饭, 起床, 滑雪, 考试, 离婚, 放假, 出差, 聊天儿, 散步, 见面, 毕业, 帮忙, 发烧, 洗澡, 照相）を使った文が18問、VO式離合動詞ではない動詞（参观, 迟到）とVO型フレーズ（做作业, 打网球, 学汉语, 看电视, 打扫房间）を使った文が8問含まれている。テストの結果、計155枚の有効回答を得た。

テストを受けた学生はすべて一年間以上中国語を履修した者である。ここでは便宜上、一年次に2コマ履修した者を初級、3コマ履修した者を中級、4コマ以上履修した者を上級と三つのレベルにグループ分けすることにする。下記の表1から、上級者の一年間の学習時間数（その学生が履修した中国語のコマ数から計算したものであり、課外学習の時間は含まない）が初級者より倍以上あることがわかる。

表1

レベル	人数	履修コマ数	学習時間数
初級	126人	1年次2コマ	102-114時間
		2年次1-2コマ	
中級	15人	1年次3コマ	129-171時間
		2年次2-3コマ	
上級	14人	1年次4-5コマ	345-474時間
		2年次4-5コマ	
		3年次2-4コマ	

1.1 習得テストの結果

図1は今回のテスト26問全体の正解率と、そのうちの離合動詞に関わる18問の正解率をレベル別に示したものである。問い全体の平均正解率と離合動詞の平均正解率はそれぞれ49.3%と45%であり、いずれも50%未満の正解率となっている。級別の正解率は、初級は47.5%（全体）と42.9%（離合動詞）、中級は53.3%（全体）と50%（離合動詞）、上級は61.5%（全体）と58.7%（離合動詞）となっている。学習時間数が多くなるにつれて、正解率は少しずつ上がってはいるが、初級の学習者よりも学習時間数が倍以上多いはずの上級者の正解率が、初級者と比べてわずか15%しか上がっていない。この結果から、学習時間数が長くなっても、学習者の離合動詞に対する理解がそれほど深まっていないことが見てとれる。

また、テストには、離合動詞が目的語を伴う時や、動態助詞“了”、“过”、“着”、結果補語“完”、数量補語、動量補語、程度補語、量詞“个”を含む「拡張形式」、動詞の重ね型、特殊構文“连～也～”を用いる場合の語順の正誤を問う計11の文法項目が盛り込んであり、これらの文法項目別の平均正解率をまとめたものが表2である。

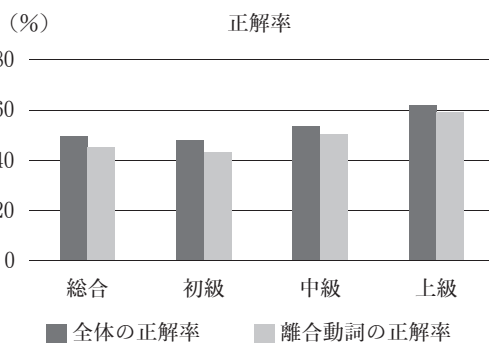


図1

表 2

文法項目	目的語	拡張形式							重ね型	構文	
		了	过	着	結果	数量	動量	程度			个
平均正解率 (%)	26.3	45.2	67.1	31.6	49.0	41.3	36.5	45.8	78.7	47.1	23.9

1.2 習得状況の分析

正解率の低い項目のうち、問 25（今天他很累，连洗澡也没洗就睡了）の正解率が低いことは事前に想定していた。これは作問の際に、初級者の多くが“连～也～”構文を学習していないことを想定し、中上級者向けに作成した問題である。しかしながら、中級者と上級者の正解率もそれぞれ 13.3%と 35.7%と低かった。特殊構文と離合動詞が同時に使われ、正誤の判別もつきにくかったと考えられる。

以下、正解率が低かった文法項目別に、学習者の回答状況を分析していきたい。

1.2.1 目的語を伴う時の習得状況

表 3 下線部の“见面”，“毕业”，“考试”は日常生活でよく使われるので、初中級教材にも頻出する単語である。しかし、学習者はこれらの単語について「会う」，「卒業する」，「試験を受ける」といった日本語の意味を覚えることにとどまり、離合動詞であることに気が付かず、表 3 のような非文を「○」と判断したのだと思われる。“见面”については、上級者であっても正解率は低かった。

“见面”，“毕业”，“考试”は「動詞＋目的語」構造をもった離合動詞であり、動詞の内部に目的語を含んでいるため、後ろに別の目的語を伴うことができない⁽²⁾。すなわち、問 18 “见面”の“面”は動詞“见”の目的語であるので、後ろに、同じく目的語を指す“大学同学”を置くことができない。正しくは、前置詞“跟”または“和”を用いて、離合動詞の前に置き、“跟大学同学见面”とするか、“的”を伴って“面”の連体修飾語にして、“见大学同学的面”とする必要がある。問 19 “毕业”の“业”も目的語であるので、後ろに“大学”を置くことはできない。この場合、“大学”は動詞の前に置いて、“大学毕业”と言わなければならない。また、“试”と“中检 4 级”は同じく“考”の目的語となるため、両者を同時に使用することができない。この場合、“下星期我要考中检 4 级”というのが一般的である。

1.2.2 拡張形式の習得状況

表 4 下線部の“说话”，“上课”，“吃饭”⁽³⁾，“出差”はすべて VO 式離合動詞であるので、動態助詞“了”，“过”，“着”，結果補語“完”などを用いる際は、以下のように V と O の間に挿入する必要がある。

表 3

テスト問題	初級 (%)	中級 (%)	上級 (%)
問18：上个周末我 <u>见面</u> 了大学同学。 (×)	27.0	33.3	35.7
問19： <u>毕业</u> 大学后他想去中国留学。 (×)	14.3	13.3	42.9
問21：下星期我要 <u>考试</u> 中检 4 级。 (×)	23.8	33.3	50.0

表 4

テスト問題	初級 (%)	中級 (%)	上級 (%)
問 2 : 我和她同班, 可从来没和她 <u>说</u> 过话。 (×)	65.1	53.3	100
問 3 : 他 <u>上</u> 课完就去打工了。 (×)	42.1	73.3	85.7
問 5 : 我昨天回到家, <u>吃</u> 了饭就睡觉了。 (×)	42.9	46.7	64.3
問 14 : 上个月他去大阪 <u>出</u> 了三次 <u>差</u> 。 (×)	42.1	46.6	28.6

問 2 : 我和她同班, 可从来没和她说过话。

問 3 : 他上课完就去打工了。

問 5 : 我昨天回到家, 吃了饭就睡觉了。

問 14 : 上个月他去大阪出了三次差。

“说话”については、上級の学生は正解率が100%であった。初級においても正解率が高かった。また、一つの傾向として、初級の場合、どの単語でも正解率がほぼ一定であるのに対して、上級になると単語によって正解率が異なる。これは初級の段階では元々離合動詞の「離」して用いるという感覚が身についていないということを表していると思われる。

今回の習得テストは「修正欄」を設けてあり、非文と判断した場合は、可能な限り、正しいと思われる文に修正してもらった。修正欄を分析すると、離合動詞の習得状況が3つのレベルに分けられる。

- 1) 離合動詞が問題になっていることに気づいた上で、正しく修正している。
- 2) 離合動詞が問題になっていることには気づいているが、修正が間違っている。

3) 離合動詞が問題になっていることに気づかず、別の箇所を修正している。

1) は離合動詞の判別、用法をともに理解している学生である。2) は、例えば、問 14 の非文に対して“出三次差了”, “出了差三次”のように誤った修正をした学生のケースで、少なくとも“出差”が離合動詞であることには気が付いているようである。3) は、例えば、問 2 の非文を“和她没说话过”のように否定詞の位置を変えたり、問 3 の非文を“上课完了”のように完了の“了”を加えたりして、誤って修正したケースである。これらは、今回のテストの性質上、正解にカウントされているが、離合動詞についてはまったく理解していない。

ここからわかるのは、まず重要なのはその語が離合動詞であるかどうかを判別できるように指導しなければいけないということである。その上で、離合動詞の拡張形式の用法上の特徴を理解させる必要がある。

1.2.3 動詞の重ね型の習得状況

中国の動詞には、動詞を重畳させることによ

表 5

問 題	初級 (%)	中級 (%)	上級 (%)
問 15 : 我们在这休息休息, <u>聊</u> 天儿聊天儿。 (×)	35.7	20.0	14.3
問 17 : 晚饭后, 他们俩总是去公园 <u>散</u> 步散步。 (×)	57.9	80.0	78.6

て、「ちょっとVする」、「試みにVする」というニュアンスを表すことができる。これを動詞の重ね型と呼んでいる。一音節の動詞は AA, 二音節の動詞は ABAB と重ねて使用するが、表 5 の「聊天儿」と「散步」はいずれも離合動詞であるので、以下の如く、動詞部分のみを重畳させて AAB とする必要はある。

問15：我们在这休息休息，聊聊天儿。

問17：晚饭后，他们俩总是去公园散散步。

興味深いのは、問 15 の場合、初級から上級になるにつれて、正解率が落ちていることである。大人の学習者は基本的に単語と文法項目を一つ一つ覚えながら外国語を学習していくわけだが、文法項目を学習しているうちに、その文法規則を一般化する傾向がある。“休息休息”と言えるのであれば、“聊天儿聊天儿”や“散步散步”も言えるはずだと判断してしまったであろう。ある面では一般的な動詞の重ね型のパターンが強く定着した、中上級者ならではの誤答と言えるかもしれない。“聊天儿”と“散步”が VO 式離合動詞であることを知っていれば、自然とこのような誤りを起こす割合が減っていくと思われる。このように、離合動詞における誤用は一つの原因に特定できず、いくつかの要素が混じって生じたものが多い。

上記の習得状況に対する分析から、日本人学習者の VO 式離合動詞の習得においては、①目的語を伴う時、②各種の拡張形式、特に動態助詞“了”，“着”，“过”や補語を使う時、③重ね型を使う時に誤用が多く生じることがわかった。

では、何故このような誤用が生じやすいのだろうか。日本人学習者の離合動詞の習得を妨げる問題は一体何なのか、以下、先行研究を紹介しながら検討していきたい。

2 離合動詞の誤用に関する分析

2.1 離合詞の扱い方から生じた問題

劉月華等（1982）は文法的単位の区分についてこう言っている。「大部分の中国語の単語ははっきりした形態標識に乏しいのと、書き言葉の中かなりの量の古典語の成分が残存しているために、ある言語単位が、いったい形態素なのか単語なのか、あるいは単語なのかフレーズなのかを確定するのが難しいことがある。この問題は理論的にも実践的にも複雑なものである」（相原茂監訳 1996）。離合詞はまさにそのような単語である。

陸志章（1957）は、最初に「離合詞」という概念を提起した重要な論考である。動資格の複合詞が拡張できる場合、拡張する前は一つの単語であり、拡張した後は少なくとも二つの単語となるので、この類の単語を離合詞と称するとし、その後多くの研究者に支持されて、現在に至る。しかし、離合詞の属性については、研究者の間で意見が分かれている。

李清华（1983）は“睡觉”，“起床”などを「特殊な語」，「拡張ができる語」として離合詞を「単語」として扱っている。その根拠を、「これらの離合詞の二つの成分がすでに一つの固定した特定の意味となり、単一概念を表すため、拡張しない時には単語の要素を持っているから」とする。

赵淑华，张宝林（1996）も、「離合詞はフレーズではなく、単語である。しかし、離合詞はまた普通の単語と異なり、拡張することができるので、特殊な単語と見るしかない」と同じく単語説に賛同した。

それに対して、李大忠（1996）は、「中国語に実際に存在しているのは単語でなければ、フレーズであり、「離合詞」という存在は全くない」と

離合詞の存在を否定し、「拡張できる、つまり、ほかの成分を挿入できる動資格はすべて単語ではなく、フレーズと見なすべきだ」とフレーズ説を主張した。

さらに、呂文华 (1999) は「フレーズと単語の両方の特徴を持っていることを意味しているが、フレーズでもなく、単語でもない」とそれぞれ異なる意見を展開している。

離合詞が単語なのか、フレーズなのか、長年研究者の間で議論が続いていることと本稿が問題としている学習者の誤用とは一見、関係がないように思えるかもしれないが、各々の観点が実際の辞書編纂の処理や教材の作成に反映されることになる。それが間接的に学習者の離合詞習得に影響をもたらしているのではないかと考える。

例えば、『現代汉语词典』（商务印书馆）では、凡例において、間にほかの成分を挿入できるものにはピンインの間に「//」をいれる、と記されている。第4版（2002）までは、挿入できる単語に品詞をつけず、ピンインに「//」をつける方法で処理していた。第5版（2005）からは四字熟語を除いて、各単語に品詞をつけるようになったものの、離合詞という品詞は立てなかった。習得テストに出された単語はすべて動詞に分類され、ピンインに「//」をつけることで、一般動詞と区別している。『現代汉语词典』が「//」をつけている単語の大多数が動詞であるが、中には“当面”（副詞），“倒霉”（形容詞），“称心”（形容詞）のような動詞以外のものも存在している。

離合詞におけるこのような複雑な語構成や、離合詞の存在すら否定する立場もあることから、辞書（離合詞だけを収録する辞書を除く）を編纂する際に離合詞という品詞を避けることも無理のない選択であろう。しかし、これは学ぶ側にも、教える側にも戸惑いを与えることになる。

一方、そのような辞書の編纂基準が教材にも反映されている。近年日本で出版された初級、中級テキスト計30冊を調べたところ、離合詞について言及していない教材が20冊あり、全体の三分の二を占めている。離合詞を取り上げている教材においても、離合詞の扱われ方は様々である。

例えば、各課の新出単語表における離合詞の扱いは、

- ① 「動詞」または「連詞」に分類した上で、ピンイン表記は一般動詞と同じである。
 - ② 「動詞」に分類した上で、ピンインを「//」で区切っている。
 - ③ 品詞は明示せず、ピンインだけ「//」で区切っている。
- のように不統一であるし、文法項目として扱う際も、
- ① 新出単語表のピンインに「//」で表記するだけで、文法説明はない。
 - ② 離合動詞が初めて出てくる課で文法説明を行い、関連する例文や練習がついている。
 - ③ 離合動詞をコラムで取り上げ、例文を挙げて、詳しく解説している。
 - ④ テキストには例文だけを提示し、教授用資料に説明を載せている。
- など様々である。

このように、離合詞の品詞やピンイン表記が統一されていないだけでなく、離合詞を一つの文法項目として取り扱う教材もそれほど多くない。初級段階において学習時間数が限られている中では、離合詞を独立した文法項目として取り上げないことも無理もないことであろう。しかし、“打工”、“上课”、“睡觉”などの離合詞は初級段階で頻出する単語であるので、学習者が離合詞の知識を持っていないと、誤用につながる確率が高くなる。

2.2 複雑な拡張形式から生じた問題

1950年代から離合詞の属性について、単語説、フレーズ説等々、様々な議論がされていた中、興水優（1961）は「動賓構造の熟語について、意義にたよるのはもちろん、分離の可能不可能によって語であるかどうかを判断するのはどうも無理なようである。したがって、単語であるかどうか論ずるのは、無意味とまでいかにしても効果が少ないことはたしかである」と述べ、「それより分離するという事実そのものに目を向ける必要がある。特に、外国語として学習する者にとっては、どれがどのように分離するかという点が不安定である以上、看過することのできない現象である」ことを指摘して、「対外汉语教学」における拡張形式に関する研究の重要性を強調した。さらに、氏は動賓構造熟語の拡張形式を7種類にまとめた。主として、①指示代詞や疑問詞の挿入。例えば、「咽了那口气”，“受什么苦，吃什么累”。②人称代詞，固有名詞（人名）の挿入。例えば，“救了我的命”，“撤了他的职”。③数量詞の挿入。例えば，“受一点屈”，“注意点”。④“了”・“着”・“过”・“的”の挿入。例えば，“毕了业”，“站着岗”。⑤主として修飾語など，実質的な成分の挿入。例えば，“一定得吃眼前亏”，“有人告了暗状”など。

その後、離合詞の拡張形式に関する研究が多くの研究者になされてきた。例えば、李清华（1983）は、動賓構造の離合詞が、a) 述語になれる、b) 動態助詞“了”がつけられる、c) 副詞で修飾できる、d) 肯定形と否定形を重ねて疑問文を作ることができるなど、一般動詞と同じ特徴を持っているため、外国人学習者に一般動詞と混同されやすく、特に、①“了”・“着”・“过”の挿入、②数量詞の挿入、③“什么”，“点儿”，“他的（谁的，你的，我的）”などの拡張形式と出くわした時に、間

違って使用されるケースが多く見られると指摘している。

李清华氏らとともに、『中国語離合詞 500』を編纂した大滝幸子（1990）は離合詞の文法問題に絡む拡張形式の種類に着目し、調査研究を行った。氏は、『現代汉语词典』から548個の常用離合詞（ピンインに「//」が挿入されている単語）を選出し、12の文法項目を取り入れて、ネイティブのインフォーマントに他の成分を挿入可能かどうか調査した結果、離合詞の拡張形式を11種類26項目にまとめた。

近年では、データベースを用いて離合詞の拡張形式を調査した研究が多く見られる。例えば、任海波、王刚（2005）は423個の離合詞を選出し、その「離」と「合」の頻度に関する統計や形式の分類を行い、4種類28項目にまとめている。また王海峰（2008）は2億字にのぼるデータベースを分析した上で、拡張形式を13種類に分類している。

このように、半世紀にわたって、研究者たちがさまざまな分類方法をもって離合詞の拡張形式を研究し、その規則性を見つけようとしてきた。しかしながら、離合詞には動詞だけではなく、形容詞や副詞もあり、離合動詞に限っても動賓関係、動補関係、並列関係などに分けられる。離合詞のこのような語構成上の特徴により、すべての離合詞に同一の拡張形式の規則を当てはめることは極めて困難なことである。さらに、次章で触れるように、離合詞によって、拡張できる形式が異なる場合もあれば、同じ拡張形式の用法であっても、前後の文脈によって表す意味が異なる場合もあり、実際には形式と意味の間に規則性を見出すのは困難な状況である。学習者は、離合詞のこのような複雑な拡張形式の規則性、もしくは変則性に惑わされ、誤用してしまうのだと考えられる。実

際、習得テストにおける拡張形式に関連する誤用例もこのことを裏付けている。

上述で分析してきたように、離合詞に関する誤用の多くは、離合詞の語構成上の特徴とその複雑な拡張形式の規則性によるものではないかと思われる。

国家対外汉语教学领导小组办公室が作成した『高等学校外国留学生汉语教学大纲』(2002) (長期進修) は、いわゆる長期留学生に対する中国語教育のガイドラインであり、文法項目について「初級一」、「初級二」、「中級」、「上級」の四段階に分かれているが、「離合詞」を最も初級段階の「初級一」の文法項目に分類している。つまり日本における中国語を第二外国語として履修する学習者ならば一年次で習得すべき内容なのである。しかしながら、このような初級段階で習得すべき内容が一年次で習得できるように教学計画が立てられているとは言いがたい。では、いかにしてこのような現状を改善していくべきかについて次章で検討してみたい。

3 離合動詞における教学上の注意点

3.1 語構成の特徴の周知

離合詞の習得が中国語教育における大きな難題の一つであることは、研究者と教育者の間で、すでに共通の認識となっている。それでは、離合詞は一体どのような特徴を持っているのだろうか。

『中国語離合詞 500』(1990) の概説篇では次のように解釈されている。「中国語の単語の中で、二音節以上かつ二つ以上の語素からなるものうちで、語素間の結びつきが弱く、その間にほかの成分を挿入できる単語がある。このように語素を連結してもよく、離してもよい使い方ができる単語を離合詞と呼ぶ。連結して用いる場合は単語と

して統一された一つの意味を表していて、単に語素の意味を二つ合わせて表しているのではない。しかし、離して用いる場合は間に挿入した成分の意味を加えて表すため連語の一種として扱われる。」

例えば、「投稿」は二音節の語素からなる VO 式離合動詞であり、連結して用いる場合は「投稿する」という一つの単語の意味として表されるものである。単に語素の意味を二つ合わせて、「原稿」を「投げる」という意味にはならない。離して使えば、「投了稿」(投稿した)、「投过稿」(投稿したことがある)、「投了一次稿」(一回投稿した)、「投什么稿」(何を投稿する)のように、二つの語素の間にさまざまな成分が挿入できる。また、その挿入した成分により、表す意味も異なっている。

“打工”，“起床”も“投稿”と同じ構造の離合動詞であり、多くの拡張形式を持っている。しかし，“打工”は“打过工”(アルバイトをしたことがある)と“打了三个小时工”(三時間アルバイトをした)の両方が言えるが，“起床”は，“起床” (起きたことがある)の方は稀なケースではあるが、北京大学中国语言学研究中心の“CCL 現代汉语语料库”や“百度”から用例を拾うことができる。

- 4) 我是个病人，打从我哥去世，没起过床，能去跟你们作对吗？(CCL)
- 5) 放假的时候，你什么时候十二点之前起过床？(百度)

しかしながら，“起了三个小时床”と言うことはできない。なぜなら，“起床”は持続を表すことができない動詞であるため、数量補語を伴う時には、例 6) のように、その数量補語を動詞の後に置かなければならないのである。

6) 早上起床三个小时后就犯困, 这是什么原因?
(百度)

一方, “打什么工” と言うことはできるが, “什么” の表す意味が異なることがある。與水 (1961) と大滝 (1990) にも指摘されているように, この場合の “什么” は前後の文脈によって, 二つの意味を表すことができる。例えば,

会話 1

- A 你现在打工吗?
(今アルバイトをしている?)
- B 打。
(している。)
- A 你打什么工?
(どんなアルバイトをしているの?)
- B 在面包房做面包。
(パン屋でパンを作っている。)

会話 2

- A 你去哪儿?
(どこへ行くの?)
- B 我去打工。
(アルバイトに行く。)
- A 你不是发烧了吗? 还去打什么工呀?
(熱があるじゃないの? バイトに行く必要があるの?)

会話 1 に出た “什么” は単に具体的な内容を尋ねる意味を表しているのに対して, 会話 2 の “什么” は元の意味がなくなり, 「熱があるから, アルバイトに行く必要がないじゃないの?」と「必要がない」意味に転じることになる。会話 2 の用法は主に話し手の感情を表現し, ここでは A さんが B さんに対する心配する気持ちを表すものと見られる。

上記の内容を総括すると, 離合動詞を教える際

にはまず次の内容を要点として学習者に周知する必要がある。①離合動詞は合わせても, 離しても使用できる特徴を持っている。②離合動詞には多くの拡張形式がある。その拡張形式には一定の規則性があるものの, 離合動詞によって, 使用できる拡張形式が異なる場合があるため, 各々暗記する必要がある。③同じ拡張形式を使っても, 表す意味が異なる場合もある。

3.2 拡張形式に関する知識の強化

このように, 複雑な拡張形式が学習者の離合動詞習得の大きな妨げになっているため, 拡張形式に関する知識も強化しなければならない。

- 7) 她直言无隐的说她只在高中毕过业。(CCL)
- 8) 教室里正考着试呢, 请小一点儿声。(百度)
- 9) 我现在人不在家, 出着差呢。(百度)
- 10) 早上起完床第一件事做什么?(百度)
- 11) 她在绝望中问: “离完婚后, 我们还可以做朋友吗?” (CCL)
- 12) 那时候, 四姐也在准备高考, 妈妈就 3 点钟起一次床, 叫姐姐起床准备高考, 5 点钟再叫我起来做功课。(CCL)
- 13) 学校为此又考了一次试。(CCL)
- 14) 几个月后就几乎平均每两周必发一次烧。(CCL)
- 15) 起个床花了近半个小时。(百度)
- 16) 近些年, 离个婚已不算什么了。(CCL)
- 17) 江苏大学生平均花 6 千多才能毕个业。(百度)
- 18) 偶尔的生个病, 发个烧, 也不是坏事。(百度)

表 6 は今回習得テストで出題した単語と文法項目をまとめたものである。空欄はその離合動詞に他の成分が挿入できることを表し, 「×」はそれらを挿入できないことを意味する。△は例 7) ~

表 6

文法項目 離合動詞	了	过	着	結果補語 “完”	数量補語	動量補語	程度補語	重ね型	目的語	个
说话									×	
上课									×	
起床★		△	×	△	×	△		×	×	△
滑雪									×	
考试			△			△		×	×	
离婚★			×	△	×	△	×	×	×	△
放假									×	
出差			△						×	
聊天儿									×	
散步									×	
见面			×						×	
毕业★		△	×	×	×	×	×	×	×	△
帮忙									×	
发烧						△		×	×	△
洗澡									×	
照相									×	

例 18) のような例文は見つかるものの日常生活においてはあまり使わないものである。また、★印がついているのは持続不可能な離合動詞である。表 6 から、例外はあるが、下記のような拡張形式の規則にまとめられる。

- ① “了” はほとんどの離合動詞に挿入し、動作の完了を表すことができる。
- ② “过” は多くの離合動詞に挿入し、動作の経験を表すことができる。
- ③ “着” は動作の持続を表す助詞のため、持続不可能な離合動詞には挿入できない。
- ④ 数量補語は持続不可能な離合動詞に挿入することができない。
- ⑤ 離合動詞は目的語を伴うことができない。
- ⑥ 例 13) のように、一部の離合動詞は“了”や“过”を伴う数量補語または動量補語としか使用することができない。

⑦ 量詞“个”は例 15), 例 16), 例 17) のような動作を一回行う意味と、例 18) のような軽い語気を表す意味の二つの用法がある。

⑧ 持続不可能な離合動詞は、「ちょっと V する」を表す動詞の重ね型は使えないが、軽い気持ちを表す量詞“个”の挿入はできる。

教材により、取り上げている離合動詞が違ったり、文法項目の掲載順序も前後したりすることがあるが、一定の文法項目が終わった段階で、既習の離合動詞をピックアップして、その拡張形式を上記のように、まとめて説明すること（ここでは総合解釈法と呼ぶことにする）が、基礎文法を固めつつ、離合動詞に関する知識も増やせるため効果的なのではないかと考える。

3.3 教学方法の提案

上記の総合解釈法のほかに、新出単語として離

合動詞が出た時、まずこの類の動詞が一般動詞とどう違うかを説明し、印象をつけることが重要である。それは、後に拡張形式が使われる時の下準備の役割を果たすことになるからである。また、離合動詞を教える際には、離合動詞の特徴とその特別な用法も強調して教えなければならない。

3.3.1 要点解釈法

“毕业，结婚，离婚，聊天儿，握手，帮忙，生气，问好，道歉，请客”などの離合動詞は目的語を伴うことができない。動作の対象を示す時に、次の三つのパターンがありうる。①「前置詞+対象+離合動詞」の形式でしか使えないもの。例えば，“向她道歉，给孩子洗澡，和学生聊天儿”がある。②「動詞+対象+目的語」の形式でしか使えないもの。例えば“劳您驾”，“请你客”などが挙げられる。③上記両方の形式が使えるもの。例えば，“彼に会う”は“跟他见面”と言ってもよいし，“见他一面”と言ってもよい。同じく「彼を助ける」は“给他帮忙”と言ってもよいし“帮他的忙”と言ってもよい。

3.3.2 誤用識別法

誤用分析は教員のみが行うものではない。学生も文を正しく直すことにより、学習内容を強化することができる。例えば下記のように、学生に間違った文を提示し、どこが間違っているのか、どう直せばいいのかを考えさせた上で、間違った理由を解釈するとよい。こうした作業が以後の誤用防止につながるはずである。

a * 他们正下着课。

a 他们下课了。

→“下课”は持続ができない動詞であるため、動作の持続を表す“着”との併用ができない。

b * 国庆节公司放假了一个星期。

b 国庆节公司放了一个星期假。

→“了”や数量補語は動詞と目的語の間に置くべき。

c * 请问好您父母！

c 请问您父母问好！ / 请问您父母好！

→ VO 式離合動詞に目的語を伴うことができない。

d * 她滑雪得很好。

d 她滑雪滑得很好。

→程度補語を伴う時は、最初の動詞を繰り返さなければならない。

e * 他们已经毕了一年业了。

e 他们已经毕业一年了。

→“毕业”のような持続不可能な動詞が数量補語を伴う時に、動詞の間に挿入せず、動詞の後に置かなければならない。

4 終わりに

日本人の中国語学習者の VO 式離合動詞に対する習得度を測るテストをした結果、初級、中級、上級、どのレベルも望ましくないことがわかった。また、調査結果から、文法項目の中でも特に「目的語を伴う時」、「各種の拡張形式を用いる時」、「重ね型を用いる時」に誤用が顕著であることがわかった。そして、離合動詞における語構成上の特徴とその拡張形式の用法の複雑さが習得を妨げる大きな原因となっていることを指摘した。以上を踏まえて、離合動詞を習得するための「総合解釈法」、「要点解釈法」、「誤用識別法」を提案した。今後の授業実践を通して、これらの教学方法の有効性を考察したい。

注

- (1) 本稿においては、離合詞と離合動詞を使い分けている。筆者が取り上げて考察するのは VO 式離合動詞のみである。そのため、考察に関連する内容においては「離合動詞」を使用し、それ以外は基本的に「離合詞」を使用している。
- (2) 離合動詞に目的語がつくかどうかについて、今まで異なる議論がされてきた。“见面”，“毕业”は確実に目的語をとらないが，“担心”のように目的語がつく離合動詞も存在している。日常生活でも“担心你的身体”という表現がよく使われている。しかし、外国人学習者に教える時は、レベルや学習進度に合わせて、分かりやすく且つ納得できる解説が必要であり、筆者は便宜上、離合動詞はうしろに目的語をとらないと説明している。
- (3) 離合動詞の習得テストを作成する際、『現代汉语词典』（第六版）と『中国語離合詞 500』を参考にした。“吃饭”について、『現代汉语词典』では「生計を立てる」という意味だけが離合動詞として扱われているが、『中国語離合詞 500』では、「食事をする」と「生計を立てる」の両方が離合動詞として扱われている。どのような基準に基づいて離合動詞と判断するかについて、従来から異なる意見が出ている。このような判断が分かれる離合動詞については、習得状況を調べるテストに入れることは今後避けるべきだと考えている。

参考文献

(中国語文献)

李大忠 1996 「动宾格」『外国人学汉语语法偏误分析』

北京语言学院出版社 p. 219-232

李清华 1983 「谈离合词的特点和用法」『语言教学与研究』p. 91-100

刘月华, 潘文娣, 故鞅 1982 『实用现代汉语语法』商务印书馆 1005 頁

陆志伟 1957 『汉语的构词法』科学出版社

吕文华 1999 「短语词的划分在对外汉语教学中的意义」『语言教学与研究』p. 130-135

吕文华 1999 「离合词的教學」『对外汉语教学语法探索』语文出版社

任海波, 王刚 2005 「基于语料库的现代汉语离合词形式分析」『语言科学』p. 75-87

王海峰, 姚敏 2010 「半个多世纪以来的现代汉语离合词研究」『语文研究』p. 19-27

王海峰 2009a 「离合词离析形式 A x B 的构式特征」『汉语学习』p. 31-35

王海峰 2009b 「现代汉语离合词离析现象语体分布特征考察」『语言文字应用』p. 81-89

王海峰 2011 『现代汉语离合词离析形式功能研究』北京大学出版社 365 頁

赵淑华, 张宝林 1996 「离合词的确定与离合词的性质」『语言教学与研究』p. 40-51

(日本語文献)

大滝幸子 1990 「中国語離合詞が提起する文法問題(その1)」『明海大学外国語学部論集』p. 91-100

大滝幸子 1991 「中国語離合詞が提起する文法問題(その2)」『明海大学外国語学部論集』p. 97-106

中山時子監修 1990 『中国語離合詞 500』東方書店

與水優 1961 「動賓關係について」『中国語学』No. 114

付 録

	問 題		問 題
1	他们都没参观过这个博物馆。	14	上个月他去大阪出差了三次。
2	我和她同班, 可从来没和她说话过。	15	我们在这儿休息休息, 聊天儿聊天儿吧。
3	他上课完就去打工了。	16	星期天, 我常常在家看看电视, 打扫打扫房间。
4	做完作业后他就看电视来了。	17	晚饭后, 他们俩总是去公园散步散步。
5	我昨天回到家, 吃饭了就睡觉了。	18	上个周末我见面了大学同学。
6	上周你是不是和朋友一起去海边游泳了?	19	毕业大学后他想去中国留学。
7	他每天起床得很早。	20	你怎么上课又迟到了?
8	你滑雪得怎么样?	21	下星期我要考试中检 4 级。
9	我考试考得不好, 被老师说了。	22	你能帮帮我的忙吗?
10	我每天打网球一个小时。	23	谢谢你帮忙我们解决了这个问题。
11	我学过一年汉语, 可是说得不太好。	24	她发烧着还去上班。
12	她离婚过一次, 去年又结婚了。	25	今天他很累, 连洗澡也没洗就睡了。
13	黄金周我们公司放了五天假。	26	我们一起照个相吧。